



SENSHOJI
2020 YUKARI NEWSLETTER
since 1994

ゆかり通信

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺

VOL. 269

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

令和 2 年 6 月 ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

KAKUHOZAN SENSHOJI

浄土真宗的「仏教語辞典」その10 さ行

在家【ざいけ】

出家せずに、一般の生活を送りながら仏教に帰依すること。

男性は優婆塞（うばそく）、女性は優婆夷（うばい）という。日本の僧侶は結婚し、普通に生活している人も多いため、あまり区別しても仕方がないかもしれない。

サイダー【さいだー】

お盆参りで何うと、かなりの確率で出てくる飲み物。「暑いでしょ〜」「若いから」ということでいただくが、次のお宅に行ったときにゲップが出そうになりお経を読むのに苦労する。飲み過ぎに注意。



佐渡島【さどがしま】

明治41年（1908年）まで続いた流罪の地。日蓮や世阿弥、順徳天皇などが流されている。京から流されてきた罪人も多く、都の文化も流人とともに流れ込んでいる。そのため清水寺に似た舞台がある清水寺（せいすいじ）や五重塔がある妙宣寺などがある。ただ、京都のオリジナルより若干小さい。



作務衣【さむえ】

禅宗の僧侶が日々の仕事（作務）を行うときに着る服。現代は、禅宗に限らずいろいろな宗派の僧侶が着用し、一般にも普及し始めている。デニム生地を使ったものや、モンベルといったアウトドアブランドからも販売されている。



沙羅双樹【さらそうじゆ】

フタバガキ科の常緑樹で淡黄色の花をつける。お釈迦さまが亡くなる時、沙羅双樹の木の上に横たわると、花が一斉に白色に変化したという。日本ではナツツバキが沙羅双樹といわれている。朝に咲いた花が夜にはぼとりと落ちてしまう様子が諸行無常を感じさせるのである。



サンガ【さんが】

僧団、仏教教団をサンスクリット語で「サンガ」といい、一般的な集団もあらず。Jリーグの京都サンガF.C.のサンガは、このサンガからきていて京都らしいネーミングである。



懺悔【さんげ】

罪科を悔いて、仏・菩薩・師・大衆・の前で告白をし。悔い改めることをいう。お釈迦さまは、弟子たちが罪を犯したときにはその都度、懺悔を行わせたといわれる。半月ごとの集まりや、安居の最終日など定期的に行われ、とても大切なものとしていた。自分の至らぬところに気づくことはなかなかお難しいことである。



本文：麻田弘潤著「気になる仏教語辞典」より